

大学法人化を契機とした研究組織変容の動態分析： 附置研究所・研究施設に焦点をあてて

金子，研太

<https://doi.org/10.15017/1866242>

出版情報：九州大学，2017，博士（教育学），課程博士
バージョン：
権利関係：

氏名	金子 研太
論文名	大学法人化を契機とした研究組織変容の動態分析 —附置研究所・研究施設に焦点をあてて—
論文調査委員	主査 九州大学 教授 元兼 正浩 副査 九州大学 教授 吉本 圭一 副査 九州大学 准教授 木村 拓也 副査 九州大学 准教授 池田 浩

論文審査の結果の要旨

本研究は、競争的環境下での資源配分や組織編成の弾力化など国立法人化の理念を色濃く反映した制度が導入され、近年多様化が進んでいる附置研究所・研究施設を主な対象として、法人化前後に行われた政策が大学の研究機能に与えた影響を実証的に明らかにするものである。

本研究は、各研究組織の属性や活動状況、改組をめぐる関係者の動きについて独自の調査と分析を行うことにより、研究組織の動態を把握したうえで、これをガバナンス、アクター、パフォーマンスの観点から検証した。分析を通し、新たな制度下で研究組織の拡大や新陳代謝が生じているものの、それを促す評価や資源配分では国や法人の影響力が強まっており、組織改編が自主性・自律性の論理とは異なった方向で進められる傾向があることが描き出された。さらに、このことにより既に実績を上げている分野に追加配分するという意思決定が行われやすく、現行制度で付与されている法人の自律性では新たな学問領域の生成段階を支える資源配分の手立てが十分でないことが裏付けをもって示された。これは、近年の高等教育研究で途絶えていた附置研究所・研究施設を対象とする研究に新たな知見を提供するものであるのみならず、法人化政策の検証にもつながる重要な知見であり、高く評価できる。よって本論文は博士（教育学）の学位に値するものと認める。